

J.S.V.R. ニュースレター

発行人 バレーボール学会
会長 朽堀 申二
発行日 2004年9月10日
事務局
〒444-0005 岡崎市岡町原山12-5
愛知産業大学 後藤研究室内
TEL. 0564-48-4511 FAX. 0564-48-7756
E-mail : jsvr@asu.ac.jp
http://www.jsvr.org/

バレーボール学会

The Japanese Society of Volleyball Research

No.11
2004.9

< 巻 頭 言 >

これまでの10年、そしてこれからの10年を考える

理事長 遠藤 俊郎(山梨大学)

バレーボール学会はこの2004年度で設立10周年を迎えます。この10年という節目に当たり、理事長として巻頭言に言葉を寄せる機会をいただいたことを大変光栄に存じます。10年という歳月はそれぞれ「ひと昔」と表現されるように一つの区切りであり、その間にバレーボール学会も少なからず進化してきたものと自負しております。そこで、改めてこれまでの進化の過程を整理することにより、次代の10年のスタートダッシュに備えることを期したいと思います。

バレーボール学会の発足は、日進月歩で変化しつつある現代社会において、バレーボールに関する理論・研究にも少なからぬ変化・多様化が認められ、これまでのような個人レベルでの研究活動だけでは限界があるのではないかと、それならば先人の気概に学びつつも、これまでの研究の体系化の努力、相互の情報交換の場の設定等を通じて、新たなバレーボール学の構築を目指すべきであろうという発想が発端でした。そしてこの発想は、今日まで入会案内や本学会が発信する様々な文章の中に常に参照されてきました。

当初、朽堀現会長、矢島現副会長、そして私遠藤の3名が世話人となり、バレーボール研究会としてその設立準備会を早稲田大学体育局(当時)において開催したのが1995年8月4日(金)でした。設立発起人として名を連ねたのは、当時我が国でバレーボールの研究や実践において指導的立場で活躍されていた22名の先生方であり、そのうち第1回準備会には10名の出席を得ることができました。その準備会の席上で研究会の活動内容や組織に関する規約案等が検討され、研究会の第1歩がまず踏み出されたのでした。その後2回の準備会を経て、1996年5月25日(土)に記念すべき第1回総会・研究会が121名の参加者を迎えて開催され、正式にバレーボール研究会が産声をあげました。今でこそ学会等の細分化が進み、数多くの研究分野別の学会が乱立とっていいほどの活況を呈しておりますが、この時期単一種目単位での学会・研究会組織は2~3学会を数えるのみであり、その意味ではバレーボール研究会は学問的時代の流れを予見し、それに先行していたといえるかもしれません。

その後、1999年に名称をバレーボール学会へと発展的に改め、これまでに機関誌「バレーボール研究」6巻発刊、ニュースレター10号発行、本年度で第10回目を迎える年1回の総会・研究大会の開催、毎年1~2回の研究集会等、積極的に活動を継続して参りました。また、いち早く学会ホームページを開設し、インターネット時代にも対応しております。さらに、当初100人強であった会員数も年々少しずつではありますが増加しており、現在では小・中・高・大の学校関係者、実業団関係者、クラブチーム等の一

バレーボール、企業関係者等の様々な領域からの会員が400名強までになりました。また、1999年度には50回記念大会を迎えた日本体育学会から指名を受け、その大会期間中に体育・スポーツ関連学会連合大会として共催シンポジウムを開催する等、学術的団体としての認知度も向上してまいりました。

また、学会組織の近代化にも取り組み、黎明期においては正・副会長、幹事長のみが幹事の選挙による選出でしたが、2004任期年度からは会員による直接選挙等によって選出された理事が中心となって理事会を組織して学会の運営に取り組んでおります。さらに、これまでは編集(柏森委員長)、企画(明石委員長)、総務(後藤委員長)の3委員会制度でしたが、これに渉外委員会(亀ヶ谷委員長)を加えた4委員会制度に移行し、多方面に渡って様々な関係を構築することによって経済的にも健全な学会運営を目指しております。

このように整理してみますと、ゼロからのスタートを切ったバレーボール学会でしたが、この10年で各役員、学会会員のご尽力の結果、学会としての基礎作りの期間は終了し、いよいよ拡充期に入る段階ということができると考えております。現在でも米国バレーボール協会と機関誌の交換による情報のやり取りを行っておりますが、今後もこのような国際交流や学会の輪の国際化の試みを積極的に推進していくことも必要でしょう。朽堀会長はニュースレター第1号(1996年10月)で次のように記しております。

「国内での高まりとまとまりが出来たなら、アジアの研究者達にも声をかけていきます。北京でも西安でも台湾でも私共の研究会に関心を示してくれる人達に会いました。いずれは世界のバレーボール愛好者達にも仲間に入っていただきたいと感じています。」

その他、学会大会への発表参加や機関誌への投稿、会費の納入等に関しましても、今後とも会員の皆様方の積極的なご協力を頂かなければならない部分です。加えて、ご意見等も気軽にお寄せ頂き、是非“我々の学会”“自分たちの学会”という意識でさらに学会を育てて頂ければと思います。

最後になりましたが、バレーボール学会設立10周年を記念して、現在、機関誌記念号の発刊、記念書籍の出版、記念大会の開催の3事業を計画し鋭意準備を進めております。特に2005年3月26・27日の記念大会(会場:東京女子体育大学)には、是非多くの会員の方にご参加の上、盛大に10周年を祝っていただきたいと心からお願いする次第です。

2004年度バレーボール学会第1回研究集会報告

1. はじめに

2004年度第1回研究集会が、「バレーボールのチームづくり」をテーマに、Vリーグ5連覇を成し遂げたサントリー・サンバーズのゼネラルマネージャー(GM):鳥羽賢二氏と、テクニカルディレクター:佐々木太一氏を講師に迎えて、専修大学神田キャンパスにて開催されました。

サントリー・サンバーズが、なぜ強いのかという理由の一端がチームマネジメントにあり、企業チームが今後向かうべき方向性が示されると同時に、中学生から一般のチームにも学ぶべき知見が多数報告されました。また、オンコートレクチャーでは、センタープレーヤーに必要な攻撃面、ブロックの様々な工夫がレクチャーされました。

(文責:愛知産業大学 後藤浩史)

2. 飽くなき覇権への挑戦

＝サンバーズ5連覇の軌跡と今後の展開＝

鳥羽 賢二氏

①常に進化する組織への改革